

令和5年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀北小学校

校長 堀 香 織

1 学校教育目標等

ふるさとに夢や誇りを持ち 未来の創り手となる北っ子の育成
 ～ 自ら考え 伝え合って学びを深める子を育む ～

2 今年度の重点目標

○自分の考えを持ち、それを堂々と発表できる児童となるよう、また、他者の意見を聞いて自分の学びを深めるよう、すべての学校教育活動の中で取組を進める。

(市重点研究 資質・能力向上研究指定校1年次)

重点取組 ・「北っ子式算数」の深化 ・基礎学力の向上
 ・ふるさと学習 ・遠隔授業

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	基礎・基本の定着	B	授業がわかりやすいと回答した児童は93%、また学んだことが定着していると回答した児童は82%である。北っ子検定やICT活用等で個に応じた学習の充実に努めた結果と思われる。学習に苦手意識をもつ児童への支援を含め、今後も児童が学ぶ喜びを体感できる指導に努めていく。
	学習形態・指導方法の工夫改善	B	児童は友だちの意見を聞く姿勢が身につけている(97%)。また8割の児童が進んで発表したり、おたずねができた。今後はこの割合を上げていくために発表しやすい授業の雰囲気づくりや、学び合う方法の研修の機会を増やすことで教師の力量を高めていきたい。
	学びの発信・コミュニケーション力の向上	A	全へき大会をはじめ学びを発信する機会を多く得たこと、全校朝会等で自分の考えや思いを恥ずかしがらず発表できる児童が目に見えて増えた。また、発表が褒められた、認められたことで自尊感情が高まったのか、苦手なことや困難なことにもあきらめずに取り組む児童が増えた。
生徒指導	基本的生活習慣の定着	B	あいさつは97%の児童がよくできていると回答した。基本的生活習慣も概ね良好であるが、唯一の課題がゲームの時間が長く就寝時刻が遅い児童がいることである。家庭での約束を守れない児童が多いので、親子ともに効果的な啓発を模索していきたい。
	児童理解と組織的な対応 外部関係機関との連携	A	発達に課題があったり、家庭の不安定さが学校生活に影響を及ぼしている児童が多く、家庭児童相談室をはじめ外部機関と連携を図る等、保護者の支援を含めて落ち着いた学校生活となるよう柔軟な支援体制を心がけた。また、問題行動については未然指導、即対応を組織的に行った。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会・保護者との連携	A	ふるさと学習における地域講師との橋渡し等、学校運営協議会の委員様には学校教育の推進に大きな力を発揮いただいた。特に北っ子広場では運営協議会主催で石見神楽の鑑賞を企画いただいた。保護者の行事への参加率も高い。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	どの学年も地域の教育資源を生かした取組がしっかりできている。児童はたくさんの草山の魅力を発見することができた。今後も新たな分野への開拓や人材の発掘等、アンテナを高くして地域に根ざした教育活動を展開していく。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・本年度は全国へき地大会での発表で頑張っている様子がいろいろなところで取り上げられ、地域住民としてうれしかった。そのことが学習面において自発的に前に出てくる子が増えたことにもつながったようでよかったと思う。
- ・本年度も学校運営協議会の委員が子どもたちの学びの講師となり教育活動に参加することができた。ふるさとに興味を持ち、子どもたちが生き生きと活動するようすを見ることができたことは良かった。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・不登校生が増えていることが気になる。学校が楽しいと回答する児童が多い中、学校が楽しい空間となっているとするならば、児童が誘って不登校の子を連れて行くことができないものか。
- ・不登校の子の登校できない理由はあるのか。幼稚園と同じ話にはなるが、保護者へのアプローチが必要な家庭であるように感じる。となると、学校ではなく市をはじめとする関係機関に働きかけをしてもらうことも必要である。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・読書について、先生方は読書の習慣をつけるように指導していると回答されているのに、子と保護者は身につけていないとの回答が多い。このあたりの検証は必要である。 ・「わかりやすい授業づくりに取り組んでいますか」の先生方の回答で、3の「やや当てはまる」を選択した先生方の理由を分析してみるのも面白い。なぜ、そう回答したのかの理由を明確にしていくことで、今後のわかりやすい授業づくりにつなげていけるのではないかと思う。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのゲーム等情報機器の使い方のルールを守れているかどうかについての子と親との認識の違いが気になる。親がゲームをしていたら、子がゲームをするのは必然である。 ・高学年で寝る時間が10時以降になるのは遅すぎると思う。親の生活リズムに子が合わせないようにしないといけない。 ・基本的な生活習慣について、参観日に親子で話をする機会を持ってもらってもよいのではないかと思う。「なぜ、これがいいのか。悪いのか」について具体的に話をして、意識を高めてほしい。そして、言っているだけでは子はできないので、親も一緒に行動してほしいと思う。 ・生活習慣の改善に関しては、親に対して科学的なデータや研究で伝えていくのが効果的である。 ・講演を行うなら講師の選定が重要である。先日の市同教のPTA部会の講師はとても良かった。このような方に来ていただき、親子ともに心に響くようなお話をしていただくことを望む。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はふれあい運動会が復活するなど、地域を巻き込んでの行事を行うことができた。今後、地域も学校もお互いに無理のない範囲で計画・実施してほしい。 ・学校運営協議会で主催した「神楽鑑賞会」が好評でよかった。迫力満点の演技に子ども大人も楽しめた。来年度も地域の方に広く参加を呼びかけて、学校と家庭、地域をつなぐ催しを企画していきたい。